

本書では、各レッスンのテーマやトピック、紹介されている実験について、博士とヒューマノイドのアイ、大学生のリクとが、解説や対話をしながらみなさんをナビゲートします。

「LABCAST(Laboratory Broadcast)」として展開される、博士とアイとリクとのゼミの生中継では、毎回大きな科学の問いが設定されます。「日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？」(L9)、「『失語症』の症例から我々は人や社会について何を学べるのか？」(L10)、「社会の『絆』は人々の心を救うことができるのか？」(L11)、「紙の本、手書きのノート、対面での会話は時代遅れなのか？」(L12)、「頭脳明晰な人々も大きな失敗をするのはなぜか？」(L13)「人はなぜ『陰謀論』を信じるのか？」(L14)、「人は『未来の自分』をどこまで想像できるのか？」(L15)、というように、いずれも、人間の心と身体を考察する上で重要なテーマが掲げられ、世界中の調査や実験について紹介されます。博士がアイとリクからの質問を受けながら思考を深めるアクティビティを提示し、解説を行います。世界中の科学の問いに関する視点論点を体験し、続く本文への橋渡しのアクティビティとして活用しましょう。

アイ

博士が開発したヒューマノイドで、現在、日本語学習中。明るく聡明だが、時折バグが生じ、抜けている箇所もある。気が強く、リクにズバズバものを言う反面、乙女な側面も持つ。好物は博士の焼いたドーナツで、趣味は競技カルタとeスポーツ。



リク

川崎市生まれ、ニュータウン育ち。学部3年時に博士が大学に移籍してきた関係で博士の研究室に所属。草食系で成績優秀。ゼミ長として、ゼミ活動の取りまとめ役も担っている。趣味はラーメンの食べ歩き。



博士

神戸市生まれウィーン育ち。専門は人工知能研究。海外の研究機関を渡り歩き学界を牽引する。自ら開発したヒューマノイドのアイに日本語を覚えさせるため日本に帰国。現在は、大学で研究室を主宰し、世界中から集めた科学の問いを扱いながら日本語で考える知能システム構築に挑戦している。趣味は囲碁で、苦手なものはワサビ。筋金入りの阪神ファン。

